

合唱用 歌えマスク

東混マスクは既に広く知れ渡っていますが、ステージ衣装などを製造販売する(株)奥山が布地問屋としてのノウハウを



生かして開発した、**接触冷感・抗ウイルス素材**を使用した合唱用マスクを紹介します。

メンネルコールありの実(埼玉県白岡市)の指揮者・

齋藤詩子さんより紹介して頂きました。合唱団で採用したとのことです。

開発のポイントは、①呼吸しやすいこと、②歌いやすいこと、③相手に飛沫を極力飛ばさないこと、④感染しにくいこと、



と、⑤湿気や暑さを軽減すること、⑥洗濯できること、とのこと。①～④は必須ですが、とくに⑤の暑さ対策は気になるところです。

(株)奥山によると、医療用マスクとは異なる視点で合唱用マスクの開発を行い、接触冷感かつ抗ウイルスの素材を用いることで清涼感を得ることができたといいます。従って、あくまで医療用のNK95マスクなどと異なります。

特長は、下方方向にフレア(ゆるみ)を多く作っていることで、



正面に唾を飛ばさない、息を吸うのが楽、通常のマスクより声を通ること。内側の肌に当たる部分は綿100%のガー

ゼを使用し、オモテの生地と内側のガーゼに隙間(ポケット)を作り、そこにティッシュペーパーやキッチンペーパーを入れることで汚染部分は使い捨てとし、マスク自体は何度も洗って使えます。

このポケットは、香港のクワン博士が考案した高機能自作マスク・HKマスクを参考にしています。HKマスクのフィルター機能は、マスクのみでは8.7%のろ過効率しかなかったものが、ティッシュペーパーを1枚挟むと45.8%に増え、3枚では83.0%にまで達します。またキッチンペーパー2枚では91.3%まで効率が上がりますが、その分だけ呼吸の流量は下がりますので、ご自分の好きな枚数に加減するとよいでしょう。

10枚セットで2万円+税(@2千円+税)、長時間着けるには良いマスクかも知れません。

また、抗ウイルスガーゼは、一般社団法人繊維評価技術協議会の認証制度**SEKマーク**を取得した高機能ガーゼです。

歌えマスクの形や色は豊富で、3層と4層の二種類の構造があり、特殊ガーゼや接触冷感ガーゼとの組合せで選べます。

詳しくは(株)奥山のホームページをご覧ください。

<http://www.okuyama-p.co.jp/mask.html>



シエナ・ウインド・オーケストラの感染対策

吹奏楽のシエナ・ウインド・オーケストラは、コロナ禍における演奏活動の再開に向け、7月4日文京シビックホールにおいて検証試演会を実施しました。新日本空調(株)の微粒子可視化システムを用い、舞台上で飛沫の可視化実験や浮遊粒子量の計測をし、別途クリーンルームで楽器ごとの発塵特性を調査しました。

吹奏楽器は通常の配置で問題なし

調査の結果、各楽器とも演奏時に、勢いよく飛散する飛沫はそれほどではないことが検証され、舞台上では、ほぼ通常の間隔の配置でもリスクは少ないとしています。

しかし、木管楽器のリードのみの音出しや金管楽器のマウスピースのみのバズィングでは多量の飛沫が確認されたこ

とから、リハーサルや舞台袖等においては特段の配慮が必要としています。

また、一部の楽器では演奏時にベルから微細な粒子の発生が見られたので、リハーサル室等の換気には気をつけるべきとしています。

検証結果を踏まえ、国際医療福祉大学の下澤達雄教授のアドバイスにより、シエナの感染予防対策として次のように実行することとしました。

1. 金管楽器(一部の木管楽器含む)の水抜きの際には次亜塩素酸水等で湿らせた布で管内部の結露が飛び散らないように覆う。また、床に落下させる場合は、同様のシートを各個人占有として配布し結露を吸収させる。
2. 木管楽器奏者が用いるスワブ(拭き取り用の布)は常にアルコール消毒あるいは煮沸消毒したものを使用し、スワブに付着した水分が乾燥した際、飛散しないようにする。
3. 木管楽器のリードのみによる音出しや金管楽器のマウスピースによるバズィング※を行う際は、周囲に人がいないことを確認の上、布や吸収シートなどで飛沫が飛散しないよう吐出部を覆う。
※ バズィング：金管楽器の練習法の一つでマウスピースだけで演奏することや、マウスピースなしで唇を振動させて演奏すること
4. リハーサル時や舞台袖等での会話や発言の際は必ずマスクを着用する。
5. 演奏後、各ホールと連携し、床面、および使用した椅子や備品の消毒を行う。
6. 奏者が発声や歌唱を伴う演出は安全性が認められるまでは行わない。
7. 各使用楽器は個人占有とし、持ち替え楽器の共有は行わない。

但し、この対策も各団体から公表される実験結果や専門家の意見など新たな情報を随時参考にして更新していくとしています。

もはやアマビエ様にすがるしかない！

疫病新型コロナウイルスが一向に治まりません。ここはひとつアマビエ様に退治をお願いしましょう。

ところで、アマビエはアマビコの



間違いではないかという説があります。明治時代の『**明治妖怪新聞**』に採り上げられ「**予言を告げた**」とされる妖怪アマビコの図はアマビエにとっても似ています。

予言をした妖怪といわれているアマビエはアマビコの類型のひとつで、名前を間違えて書いたのではないかというのです。



(↑明治時代以降のものといわれる**尼彦**の肉筆画)

海中にすむアマビコは肥後国熊本に現われ、豊作と疫病の流行を告げ、自分の姿を描いたものを見れば「**病にあわず**」と告げました。アマビコは、日本中で天彦、天日子、尼彦、あま彦、海彦、雨彦、天彦入道・尼彦入道とさまざまに呼ばれ、海中などから出現して吉凶を予言しました。

さて、現代のアマビエ様はずいぶんとおしゃれになりました。

下の絵は『おながく広場』でもお馴染みとなった、常連さんの埼玉県合唱連盟理事**松川大**さんが書いたものです。趣味が高じて本業が何だったか忘れてしまいそうな今日この頃です。

合唱や音楽を楽しむには厳しい時代になってしまいました。皆さんめげずに頑張りましょう😊

